



「川崎市一般廃棄物処理基本計画(かわさきチャレンジ・3R) 行動計画改定に当たっての意見募集」説明会

川崎のごみをどうする？

去る9月11日(木)、19時から「持続可能な地域づくり学習会」がありました。平日の夜でしたが、12名の参加がありました。

川崎市では、2005年4月に策定した「川崎市一般廃棄物処理基本計画(かわさきチャレンジ・3R)」における行動計画において、2009年度までの5年間に行う具体的施策が定められています。本計画策定後3年が経過していることから、施策の進捗状況、社会情勢の変化及び制度の改正等に対応するため、08年度に行動計画の改定を行おうとしています。なお、今回は基本計画の改定ではなく、基本計画に基づく行動計画改定です。川崎市環境局と環境審議会廃棄物部会では、この素案について市民からの意見募集を9月25日まで行っていました。

そこで今回は、意見募集締め切り前に、講師として環境局廃棄物政策担当の横田寛さんをお呼びし、説明をいただきました。初めに1時間程度、行動計画(改定素案)にそってお話があり、その後、活発に質疑応答がなされました。行政の担当者から直接話を聞くことができ、川崎市のごみの現状を知ること、計画素案へ意見を書くよい機会となりました。そして、私もなんとか意見書を提出することができました。

家庭ごみでは生ごみ類が一番多し

なんと家庭ごみの35.7%が生ごみ類、次いで、紙類32.8%、プラスチック類14.0%、ガラス類4.9%、金属類3.5%、繊維類1.3%、その他7.8%(市民ごみ排出実態調査2003年度より)となっていました。

数値を見、改めて家庭ごみの実態を知り驚きました。家庭で出るごみの中で、生ごみが一番多かったなんて。生ごみリサイクルの大切さを痛感させられました。

一つの意見に「電動ではなく、簡単なアナログタイプのコンポストによって、手軽に生ごみリサイクルができることを広めていきたい」(20代男性)というものがありません。これは、私のような一人暮らしの者や学生には、心強い意見でした。アナログで手軽な方法があるのであれば、すぐにも実践していきたいと思いました。また、「生ごみリサイクルリーダー制度

に、リーダーが活動した実績を反映させるべき」という意見に対して、モデル事例として広まる仕組みをつくってはどうか、という意見もありました。



他にも「生ごみリサイクルを推進するのはいいが、手軽にできるか」として電動の生ごみ処理機が普及するのはいかなものか。電動により電気を使い、CO₂を排出させてしまうのは、なんとも非合理的」という意見がありました。これに対しては、そういう問題もあるが、家庭の生ごみだけでなく、事業系ごみも含めた生ごみリサイクルプランを進めていく方が、結果的に影響力があるとしていました。

多摩区、家庭系ごみ資源化率が7区中トップ

区別で見た家庭ごみ資源化率は、多摩区が03年22.9%、04年24.4%、05年24.1%、06年24.1%(市全体平均:18.0%、19.9%、19.9%、19.9%)と一番高かったです。また、家庭ごみの1人1日排出量、を見ても(麻生区・中原区と僅差だが)多摩区は7区の中で一番少ない様でした。

ミックスペーパーの分別収集の拡大

ミックスペーパーの回収は、2006年11月からモデル収集を始めており、2010年から川崎市全体で回収を実施するという事です。ミックスペーパーとは、現在「資源集団回収」の対象となっている古紙(新聞、雑誌、ダンボール、牛乳パック)以外のものです。つまり、包装紙や封筒、菓子箱などの紙ごみのことです。

リサイクルを促す、分別を徹底する、また各家庭で意識を高める、ことがやはり大切になってくるのだと思いました。そのために、行政がその後押しをしてくれれば、なおよいのだと感じました。

(ぐらす・かわさきスタッフ/大西朝子)